

北海道議会議員(札幌市東区)

わたなべ 靖司 やすじ

道政だより

初めての一般質問で鈴木知事と論戦!

北海道議会議員
渡邊 靖司

また、全道に目を向ければ、人口減少や少子高齢化によるひずみが地方財政、経済、雇用、社会保障、教育など、あらゆる分野で生じております。こうした課題を次世代に先送りすることなく、解決に向けた道筋を見いだすことが今を生きる私たちに課せられた使命と考えております。

地域の皆さまのご理解とご協力のもと、令和という新しい時代にふさわしい輝く北海道を全力で築いていく決意です。今後ともご指導を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

さて、東区は昨年、胆振東部地震により大きな被害を受けましたが、政府・与党一丸となつた復旧・復興の取り組みが実り、普段の落ち着きを取り戻しつつあります。しかしながら、避難所運営や被災者支援のあり方など、災害を機に浮き彫りになつた課題も多く、いつまた襲つてくるかわからない不測の事態に備え、防災・減災対策をさらに高いレベルへと引き上げなくてはなりません。

今年4月の統一地方選挙におきまして、当選を果たすことができました。責任ある職務を任せられ、大変身の引き締まる思いですが、地域の皆さまのご期待に応えられるように精いっぱい務めを果たす所存です。

ごあいさつ



丘珠空港の利活用促進を本会議で提言

わたなべ靖司は7月1日の第2回定例道議会本会議で、初の一般質問に立ち、丘珠空港の利活用をはじめとする重要課題を取り上げ、鈴木直道知事ら道幹部と議論を深めました。「独特の雰囲気が漂う本会議場では、新人議員は初質問の際、緊張で舞い上がってしまうのですが、わたなべ靖司さんは、新人らしからぬ落ち着いた態度で論戦をリードしていた」と議会関係者から称賛の声が寄せられています。

わたなべ靖司(やすじ)のプロフィール

- 昭和31年3月5日生まれ、うお座、A型
- 北園小、明園中、札幌光星高校卒業。不動産会社経営の傍ら、町内会、消防団などで約30年ボランティア活動に従事
- 平成31年4月、北海道議会議員初当選
- 【北海道議会】議会運営委員、経済常任委員、新幹線・総合交通体系対策特別委員
- 【主な公職】●北栄東町内会副会長 ●北栄連合町内会顧問
- 北24条東商工振興会副会長 ●北27条会館理事長 ●札幌市立北園小学校評議員

わたなべ靖司政務調査室

〒065-0024 札幌市東区北24条東9丁目1-31
TEL.011-750-1717
FAX.011-722-6677
<https://watanabe-yasuji.jp/>

道政報告 第2回定例道議会 一般質問 丘珠空港の防災拠点化、利活用の促進を強く提言

わたなべ靖司は一般質問で、地元・丘珠空港の利活用をはじめとする道政課題を取り上げ、道から前向きな答弁を引き出しました。10月末にも開かれる「丘珠空港利活用検討関係者会議」の初会合では、利活用策の素案に、空港の利便性向上や、

現在1500mの滑走路を小型ジェット機の通年運航化に向けて延長(300~500m)する構想が話し合われる見通しとなっており、わたなべ靖司は、経済・医療・防災を支える航空ネットワークの拠点の実現に向け意欲を燃やしています。

地域医療について

(1)医師確保対策について

渡邊議員 地域における医師不足は深刻な状況にあり、医師を目指す多くの人が、地域医療を守ってほしいと考えている。医師の確保はどう取り組んでいくのか。



鈴木知事 医師の確保方針や医療圏ごとに確保すべき医師数を定めるなど、医育大学や医師会、市町村との連携を強めながら、実効性の高い対策を進めていく。

(2)医療と介護の連携による在宅医療の推進について

北海道HACCPについて

渡邊議員 道産食品の安全性確保と付加価値向上を図るために、道独自の認証制度「北海道HACCP」を、国の制度化に合わせて発展させる必要がある。北海道HACCPのあり方について、どう考えているのか。

鈴木知事 現行の認証制度を再構築することとし、対米・対EU等の輸出も見据えつつ、道産食品ブランドの地位向上と輸出促進に資するよう、検討を進めていく。

農業の担い手確保対策について

(1)新規就農者対策について

(2)農福連携について

渡邊議員 福祉と農業が連携した取り組みが各地で盛んになっている。障がい者や生活困窮者の雇用・就労、高齢者の生きがいの場となるだけではなく、労働力不足の農村にとっても有益だと考えるが、どう取り組んでいくのか。



鈴木知事 農業経営者と福祉事業者が互いに学び、障がい者の働きやすい環境を整えるモデル事業を実施するなど、一層の推進に取り組んでいく。

- (3)ゲノム編集技術を使った食品について
- (4)災害に強い農業基盤づくりについて

丘珠空港の利活用について

(1)航空防災基地としての整備について



自民党・道民会議議員会の現地視察。道立総合研究機構で寒冷地ものづくりラボ、札幌医科大学で遠隔操作による手術が行えるロボットなどの説明を受ける



渡邊議員 陸上自衛隊駐屯地の一部である立川飛行場は、首都圏が被災した場合、広域防災基地の役割を担う施設である。本道においてもこうした機能を持つ空港が必要だと考えるが、道民の安心・安全を守る観点から、丘珠空港の防災基地としての必要性をどう認識しているのか。

鈴木知事 大規模災害に備え、昨年、丘珠など主要空港や港を交通輸送拠点として位置付けるマニュアルを策定した。札幌市など関係機関と検討を進めていく。

(2)滑走路の延長について

渡邊議員 丘珠の滑走路は1500mと短い。災害救援機、救急搬送機が安全に離発着できるよう滑走路を延長することが重要である。平常時には便利な都市空港となり、北海道全体に大きな効果をもたらすと考えている。道の見解を伺う。

交通企画監 滑走路の整備については、将来の航空需要の見通しなど、さまざまな観点から検討する必要がある。丘珠は防災機能の役割も大きいことから、札幌市と緊密な連携のもと、一層の利活用と機能強化について検討を行う。

(3)北海道航空ネットワークビジョンについて

渡邊議員 このビジョンでは、丘珠空港の機能を、新千歳空港との役割の相互補完による拠点空港化や、メディカルウイングによる医療への貢献、防災機能の集約と位置づけている。ビジョンに掲げられた丘珠空港の利活用策の早期実現に向け、議論を前進させていく必要がある。どう取り組んでいくのか。

鈴木知事 札幌市と緊密な連携のもと、「丘珠空港利活用検討関係者会議」の助言などを踏まえ、経済・医療・防災を支える航空ネットワークの拠点の実現に向け取り組んでいく。

新幹線・総合交通体系対策特別委員会

●丘珠空港の利活用について【6月19日】

- (1)住民説明会等の実施結果について
- (2)丘珠空港利活用検討関係者会議について
- (3)今後の利活用策の検討について

●新千歳空港の発着枠拡大について

【8月7日】

- (1)今回の要請の経緯について
- (2)受け入れ体制整備について
- (3)今後の道の対応について



道議会新幹線・総合交通体系対策特別委員会の道外視察で石川・富山を訪問。
二次交通の先進事例について調査

